

令和2年12月15日

## 川上村の民俗文化に関する報告 — 川上村の年中行事Ⅰ（ハレの日） —

公益財団法人吉野川紀の川源流物語  
森と水の源流館

### はじめに

前回に引き続き、「川上村環境クラブ活動」の一つ、「川ばたみーていんぐ」で得た内容から、年中行事について記載する。

### 調査目的

川上村の民俗文化の保存・伝承

### 調査期間

2010年10月6日～随時

### 調査方法

川上村の衣食住、仕事、運搬、交易、社会生活、民俗芸能、民間信仰、民俗知識、人生儀礼、年中儀礼、昔話・伝説等、村の暮らし全般について、具体的な手法、村内外の比較、時代背景、現状などを、環境クラブ活動やその他の森と水の源流学の事業内での聞き取り・会話を転用する

### 調査結果

#### ◇ 正月

[聴取した内容]

- ・ 伯母谷地区では雑煮に大豆を2個入れる

#### ◇ 節分

[聴取した内容]

- ・ 鰯の頭をメツキバナ（ヒイラギのこと）に刺して飾った
- ・ 東吉野村では、鰯の頭を飾る時、汁が垂れないようにミカンの皮も一緒に刺して

受ける

- ・ 升に大豆を入れ、ヒイラギを挿して供えた
- ・ 鯛を食べる
- ・ 西河、大滝、人知地区などではスゴンニャク（蒟蒻の酢味噌和え）を食べる
- ・ 武木地区では蒟蒻の白和えを食べる
- ・ 蒟蒻を食べるのは、老廃物を体外に排出する、とくに男性のスナオロシのためである
- ・ 伯母谷地区では麦飯を食べる
- ・ 恵方巻きの風習はなかった

#### ◇ 朝拝式

[聴取した内容]

- ・ 正月のご馳走と同じものを用意する
- ・ 寒い時期の行事だが、昔は袴の下にシャツを着用することも禁止されていた
- ・ 昔は筋目に家ごとに袴を準備していた
- ・ 筋目に家に嫁いだので、男児を生むまで怖かった

#### ◇ 初午

[聴取した内容]

- ・ おはぎと稲荷寿司用のあげを供える

#### ◇ 桃の節句

[聴取した内容]

- ・ 菱餅を作る
- ・ 最近はこちらし寿司を作る

#### ◇ 端午の節句

[聴取した内容]

- ・ チマキを作る。迫や大迫地区ではササ、川沿いの集落の多くはアセ（ヨシのこと）、吉野町ではカヤ（ヨシ、オギ、ススキの総称）で包む。ヨシは若干葉が広いので包みやすい
- ・ デンガラを作る。デンガラとは、餡子入りの団子をホオノキの葉で包んだもの、団子にタカキビ（モロコシのこと）を混ぜることもある
- ・ 昔は単車の後ろにヨシの葉を積んで走っているのをよく見かけた
- ・ 上多古川沿いにアセが多かった
- ・ 西日本ではカシワの代わりにサルトリイバラの葉を使うことがあるが、おそらく

川上村はホオノキがあるのでこちらを代用する

#### ◇ **アユの解禁日**

[聴取した内容]

- ・ 柿の葉寿司を作る

#### ◇ **盆**

[聴取した内容]

- ・ 伯母谷地区では地蔵にソラマメを供える
- ・ 人知地区では、昼に茄子と茗荷の胡麻和え、夜に素麺を供える
- ・ 上流側のある集落では、昼に素麺、夜に粥・みたらし団子を供える
- ・ 初なりの胡瓜を河童のために川に流す
- ・ 曹洞宗と真言宗の家は丁寧に供養する
- ・ 東川、西河地区では般若心経を唱える

#### ◇ **彼岸**

[聴取した内容]

- ・ うるち米3：餅米に里芋を混ぜたおはぎを作る

#### **考察**

主に味噌づくりの際に聞き取りした内容のため、年中行事の中でも食に関する事柄が多く話題にあがった。郷土料理と同じく、村内でも集落ごとに違いが見られる。ハレの日を迎えるにあたって準備するもの、当日のしきたり、あるいは由来などについてもっと深く調べていくことで、このあたりの理由が判明することもあるのではないだろうか。また、節分の恵方巻きや桃の節句のちらし寿司のように、最近になって変わってきた部分も見られる。やはり、このままでは川上村の民俗文化が廃れる恐れがあるため、早急に記録することが望まれる。

#### **協力**

- ・ 川上村商工会女性部、他

#### **参考文献**

- ・ 服部保、南山典子、澤田佳宏、黒田有寿茂 2007年1月 「かしわもちとちまきを包む植物に関する植生学的研究」 『人と自然』 17号 p1-11
- ・ 服部保、南山典子、黒田有寿茂、橋本佳延 2007年12月 「カシワモチ、チマキ等の食物に利用する植物（葉）の記録」 『人と自然』 18号 p127-150

- ・ 財団法人吉野川紀の川源流物語 森と水の源流館編 2008 『川上村民俗調査報告書 上巻』 財団法人吉野川紀の川源流物語 森と水の源流館